第１章　気候変動をとりまく背景

～地球温暖化の状況と国内外の動向～

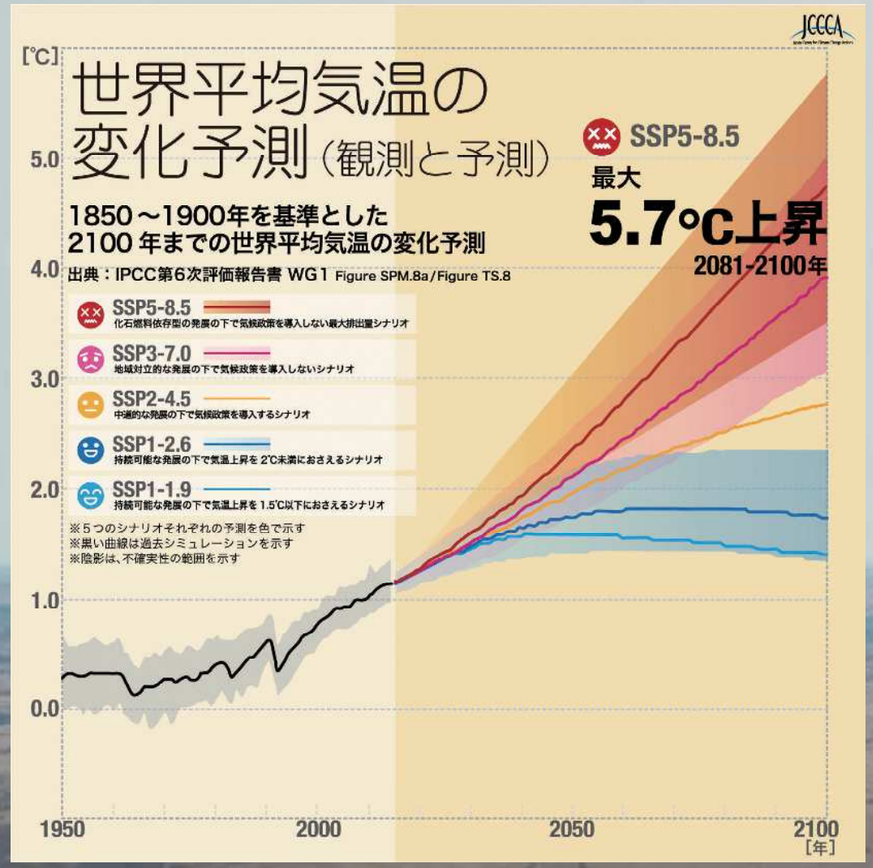
詳しい内容はこちら

1.地球温暖化の現状

（1）地球温暖化に関する科学的知見（IPCC第６次評価報告書）

気候変動に関連する科学的な評価を行う政府間組織（IPCC）が公表した第６次評価報告書では、1850～1900年を基準とした世界平均気温は、2011～2020年に既に約1.1℃上昇していると報告されました。

加えて、同報告書では、2100年までの世界平均気温の予測として、現時点の世界各国の温室効果ガス削減に向けた対策に基づく削減目標を考慮しても最大で3.5℃、さらに、現状以上の対策をとらなかった場合は**最大で5.7℃も気温が上昇**すると予測されました。

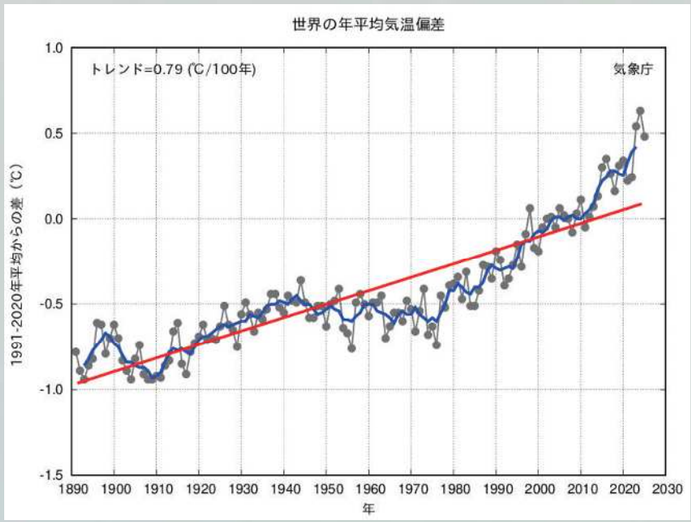


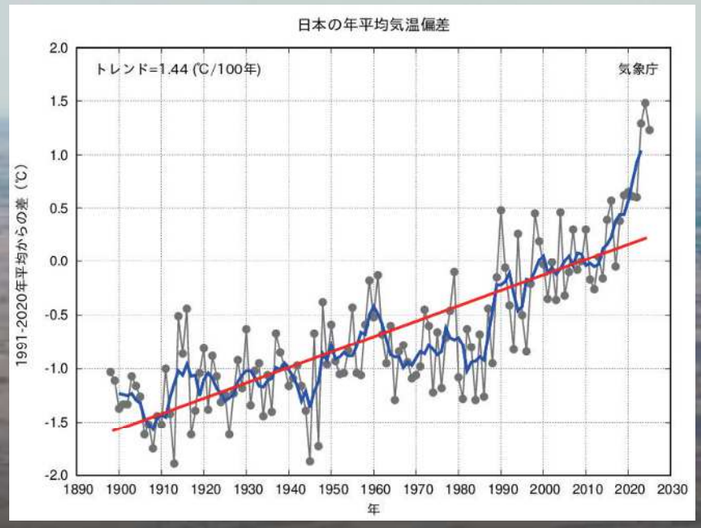
出典：全国地球温暖化防止活動推進センター

（2）近年の気候変動の状況

2023～2025年の世界の平均気温は、観測開始以来最も暑い年の1～3位を記録しました。長期的には、100年あたり0.79℃の割合で上昇しています。

また、同年の日本の年平均気温も同様に、統計開始以降最も暑い年の１～３位を記録しました。長期的には、100年あたり1.44℃の割合で上昇しており、**世界平均よりも早いスピード**で気温の上昇が進んでいます。





線（黒）：
　各年の平均気温の基準値からの偏差
太線（青）：
　偏差の5年移動平均値
直線（赤）：
　長期変化傾向。
　基準値は1991～2020年の30年平均値。
出典：気象庁HP

第１章　気候変動をとりまく背景
～地球温暖化の状況と国内外の動向～

詳しい内容はこちら

２．国内外の主な動向

2026年1月の米国のパリ協定脱退など、脱炭素に反するような国際動向が存在する事実はありますが、世界において気候変動の影響は年々大きくなってきており、地球温暖化対策の重要性は変わりません。また、温室効果ガスを排出する「都市」の役割や取組も極めて重要となっています。
北九州市は、この状況を的確に捉え、脱炭素社会の実現に向けた取組を継続的かつ強力に推進します。

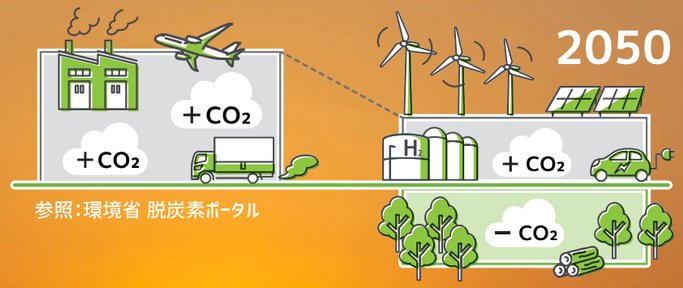
国内の動向



2050年カーボンニュートラル宣言

カーボンニュートラルとは

CO_2をはじめとする温室効果ガスの「排出量」から、植林・森林管理などによる「吸収量」を差し引いて、**合計を実質的にゼロ**にすること



参照：環境省 脱炭素ポータル

2030年度の温室効果ガス削減目標（NDC）を国連に提出

国の温室効果ガス排出量削減目標（2013年度比）

	2030年度	2035年度	2040年度	2050年
削減率	▲46%	▲60%	▲73%	ネット・ゼロ ※

※「2050 年カーボンニュートラル宣言」以降、カーボンニュートラルや脱炭素という用語が用いられてきた。一方、国際的な文脈においては、ネット・ゼロと表現することが一般的であることを踏まえ、本計画においては、固有名詞等の場合を除き、原則「ネット・ゼロ」を用いる。いずれも基本的な意味は同じ。

2035年度及び2040年度の温室効果ガス削減目標を国連に提出

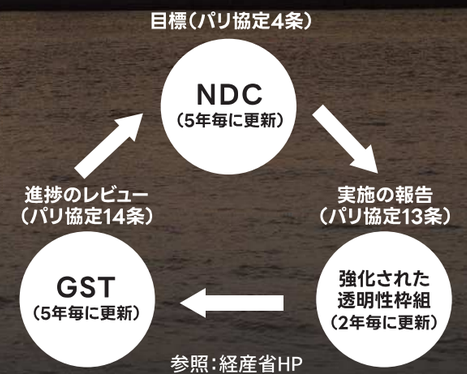
2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021 2022 2023 2024 2025

パリ協定：世界共通の削減目標

世界の気温上昇を、産業革命以前に比べて2℃よりも十分低く保つとともに、1.5℃に抑える努力を追求すること

地球温暖化を1.5℃に抑制するためには、CO_2排出量を**2050年頃に実質ゼロにする必要がある**（IPCC1.5℃特別報告書）

パリ協定で掲げた目標達成に向け、世界全体の進捗状況を評価する「グローバル・ストック・テイク」（GST）を初めて実施（以降、５年ごとに実施）



参照：経産省HP

世界の動向





出典：国連気候変動枠組条約事務局ウェブサイトより